

平成17年度 第3回 北九州市地方独立行政法人評価委員会

(議事要旨)

1 日時：平成17年7月4日(月) 14:00~15:30

2 場所：市役所庁舎 5階 特別会議室A

3 出席者：

委員(五十音順)

・石田委員長、片山委員、城水委員、中島委員、福地委員

市側

<総務市民局>

・梅本経営企画室長、坪根経営企画室主幹 他

<産業学術振興局>

・尾上産業学術政策部長、川之上学術振興課長 他

<公立大学法人北九州市立大学事務局>

・丸山事務局次長、山本経営企画課長

4 議題

(1) 中期目標(報告)

(2) 中期計画(審議)

(3) その他・次回委員会について

5 議事 (要旨)

<p>石田委員長</p>	<p>(1) 中期目標 (報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中期目標については、市長は、あらかじめ、評価委員会の意見を聴くとともに、議会の議決を経なければならないと規定されており、前回の評価委員会では、中期目標の最終審議を行いました。 ・審議の結果、当委員会は、中期目標は適当であるという意見書を提出し、それに伴い、市長が6月議会に議案を上程したとのことですので、所管局からその結果報告をお願いします。
<p>産学局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の評価委員会で適当であるという意見書をいただきましたので、6月の定例会議でこの中期目標を上程しました。6月議会では、料金の上限の決定とあわせて議会で審議いただきました。本会議、経済港湾委員会の審議を経て、6月7日に議決をいただきましたので、6月14日に北九州市から北九州市立大学に正式に中期目標を指示しました。
<p>石田委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・委員の皆様、質問等があれば、お願いします。 ・質問等ないので、次の議題に移ります。
<p>石田委員長</p>	<p>(2) 中期計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中期計画については、市長から中期目標の指示を受けて法人が策定し、市長の認可を受ける必要があります。また、市長が認可しようとするときは、あらかじめ、評価委員会の意見を聴かなければならないと規定されていることから、これまで中期目標とあわせて当委員会において審議してきました。 ・大学から市長に認可申請があり、別紙のとおり当委員会に意見を求める通知がありましたので、本日は、中期計画について評価委員会の意見を集約し結論を得たいと思います。これは、これから当委員会の主要業務となる評価のもととなるものですので、大所、高所からご検討、ご審議していただきたいと思います。 ・では、大学側から中期計画について説明をお願いします。
<p>北九大</p>	<p>大学より資料について説明</p>
<p>北九大</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前回、北九大から市内の学校に先生を送り込むというご意見がありましたが、北九大には、人間文化研究科があり、現役の教員が3人います。仕事を持っておられて、その業務に活かすために大学院に来られているようです。 ・優秀な学生の優遇に関して、経済的な支援についてご意見がありましたが、

	<p>中期計画の優秀な学生の確保に関する具体的方策という項目の中で、「意欲ある優秀な学生等を積極的に受け入れるため、奨学金制度を含めた支援方策を検討する」としており、現在作成中の年度計画に「大学院の進学を含め、優秀な学生を受け入れる方策について取組む」ということを盛り込むこととしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概要図の社会貢献の部分で市民向け相談窓口についてももう少し分かりやすくしてはというご指摘がありましたので、スペースの関係で舌足らずな点がありますが、表現を変えました。市民向け PR 資料をいずれ作りますのでその中で出来るだけ分かりやすくしたいと思います。 ・教職課程の充実について、実際教員になる人数の質問がありましたので、再度確認したところ、教職課程取得者は毎年 90～100 人おり、その中で実際に教員になれるのは 10 人前後であり、非常に少ない状況があります。 ・収支計画の中の 30 億円の減価償却費についてですが、17 年 4 月 1 日の時点で北九州市から譲渡を受けた施設、外溝、樹木、車両等に関するものが含まれています。
石田委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・委員の皆様、意見・質問等があれば、お願いします。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・開始貸借対照表を作成する必要があります。
北九大	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、監査法人等により期首の残高の確定作業をしており、その後、貸借対照表を作成しまして、あらためてお示しします。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・余剰金は、中期計画の後、繰り越せますか。
北九大	<ul style="list-style-type: none"> ・市長の承認が必要ですが、その承認に際して評価委員会の意見が必要になります。中期計画期間内は毎年繰り越せます。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・収支に関して、例えば運営費交付金等について、どこでどのように評価するのですか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・収支が妥当かどうかについては、この評価委員会の中での評価のポイントになるかと思います。どこまで掘り下げて評価していくかについては、今後の委員の意見を踏まえて結論を出す必要があります。予算、収支というものを軸にしなが、評価をしていくのだろうと思っています。

委員	・学部と大学院の教育が連携して行われる中で、大学院の推薦入試等、優秀な学生を大学院へ推薦することは、考えていますか。
北九大	・飛び級制度があります。それと北九大の学部から修士課程に進学する学生が6割いますので、実質的には推薦制度に近い形になっています。
委員	・現在、国立大学が、早い時期に大学院の入試を行っており、学部の学生が他の大学院に流れないようにする必要がありますので、検討をお願いしたいと思います。
委員	・中期計画が多岐にわたるので、スケジュールを早期にたてて、消化していかないといけないと思います。
北九大	・スケジュール等について検討する経営企画室と経営企画室ワーキング会議という組織を作りました。ワーキング会議は学科長と経営企画室長等、教員と事務職員をメンバーとし、オブザーバーとして学長が入っています。そこでタイムスケジュールの作成、進行管理を行うようになっています。
委員	・タイムスケジュールは、いつ頃示していただけますか。
北九大	・もうじき年度計画が出来上がりますので、それとあわせてお示しします。
委員	・例えば教養教育の見直しは、重要であるが非常に難しい課題であり、評価にあたっては、難易度も考慮しなければならないと思います。人文科学と自然科学が学生から人気が高く、福祉、教育等が受講者が多い。昔から教養課程のコアだったものが、学生の心をつかんでないという問題があります。計画にあるように地域性・実践性・学際性・時事性をうまく取り込んでいく必要があると思います。
北九大	・一般教養課程については、高校からの継続性、専門教育とのつながり、社会との接点をどうするのかなどについて検討しています。具体的には、非常に難しいのですが。
委員	・専門教育の入り口を教養課程に押し付けてしまったり、高校の授業の延長で捉えると学生から不評になるということもあります。

委員	・大学4年を経て入社する人と高校を卒業してすぐ入社する人の違いは、教養部分にあると思います。技術的な差はあまりないのですが、いかに幅広く考えることができるかというところだと思います。
委員	・専門職大学院は、こういったものを検討していますか。
北九大	・ロースクールとビジネススクール、MOT（技術経営）を考えています。
委員	・MOTは、文系と理系のどちらにウェイトがありますか。
北九大	・工学部を中心に考えています。ビジネススクールとうまく連携できないかという議論もあります。
委員	・ビジネススクールの対象者をどう考えていますか。経営管理者だけでなく、転職希望者や子育てが終わった主婦を受け入れるようなことも考えられると思いますが、そういった検討も必要だと思います。
北九大	・再就職の件ですが、厚生労働省の委託事業で、国際環境工学部の大学院と経営学大学院で再就職用の講座を設けてあります。
委員	・デンマークでは、産休・育休中に資格を取得できるようなプログラムが豊富にあり、少子化時代の女性の社会参加がうまくいくような仕組みになっています。
委員	・女性教員の登用に関して、女性枠を別に設けて、同等に競争させないということも必要になってくると思います。
委員	・計画のようにここまで厳しく求められると、教員も学生もストレスがたまり、落ちこぼれる人が出て、勝ち組と負け組がはっきり分かれるのではないのでしょうか。
北九大	・担任制など教員と学生が触れ合える機会を増やして、双方向に意見交換できれば、学生のストレスが溜まり過ぎたり、落ちこぼれが出たりは少なくなるんじゃないかと思っています。GPA制度の導入も厳しくするだけではなく、学生の生活態度を高度化し、教育の成果が出やすくなるようにするために考えています。

委員	・教員一人当たりの学生数はどのくらいですか。
北九大	・平成15年5月時点で25.7人です。工学部が約10人、文系が25～40人です。
委員	・北九大の特徴は、語学教育があるのですが、他に何かありますか。
北九大	・地域とのつながりが強いということはあるのですが、どのような学生を輩出するかを含めて今後特色を出していくことを考えていきたいと思います。
委員	・国際交流に関してですが、外国にネットワークを設け、将来的に学生がバリアーなく外国で活動できる環境が必要だと思います。
北九大	・交換留学の協定を結んでいますが、現在受入数が毎年10～15人ですので、これをもう少し増やしたり、大学相互に留学生を責任を持って教育しあう制度を強化しようと検討しています。
委員	・文科省が国際化を支援する取組を始めたところですが、北九大が、北部九州の国際交流の拠点となれば、特色が出てくると思います。
委員	・留学生に対してどういう教育を提供していますか。
北九大	・日本語と留学生の希望する専門分野です。
委員	・中国、韓国、台湾など東アジアからの留学希望者が多いと思いますし、地理的に有利ですので、教員、学生、研究の交流をもう少し増やせると思います。
委員	・教員の評価に関して、研究と同時に教育の評価も行う必要があるのですが、教育の評価は研究と比べて客観的に評価することが難しいので、うまくマネジメントする必要があります。研究を評価すると教育がおろそかになるというケースがあるので、そういったことが断じてないようにしなければなりませんと思います。
北九大	・教員評価については、教育、研究、大学運営、社会貢献の4つの分野で想

	定しています。教育については、30%以上のウェイトで取組んでもらうようにしています。
委員	・時間だけではなく、教育の成果を評価できるようにしていただきたい。
委員	・大学運営や研究等に関して、文科省から視察等がありますか。
北九大	・視察は何年かに1回、学部毎にあります。最近はありません。ただし、国際環境工学部を平成13年度に設置していますので、平成17年度までいろいろ報告する必要があります。同様に社会システム研究科も報告する必要があります。
委員長	・いろいろご審議をいただきましたが、その意見等を運営に活かしていくということで、今回の中期計画については、適当であるかどうかまとめればよろしいですか。
事務局	・一つだけ確認をさせていただきたいのですが、この委員会は、予算を承認するものではなく、決算を評価するという点でよろしいでしょうか。中期計画の中に予算が入っていると、これが承認されたと思われるかも知れませんが、役所の予算は単年度主義ですので、毎年議会での承認が必要になります。そこをご了承いただきたいと思います。
委員長	・それでは、只今お配りした意見書案のとおり、「中期計画は適当である」ということを当委員会の結論としてよろしいでしょうか。
	《各委員了承》
委員長	・では、この案を正式に当委員会の「意見書」としたいと思います。なお、「意見書」については、当委員会の要綱に基づき「市のホームページ」に掲載します。 ・最後に、今後のスケジュール等について、事務局から説明をお願いします。
事務局	・前回の委員会終了時に、今回、大学の年度計画の説明をするようにしていましたが、日程の都合上、出来なかったため、次回にさせていただきたいと思います。日程は、8月1日(月)14:00からよろしいでしょうか。

委員長	<p style="text-align: center;">《各委員了承》</p> <p>・では、これで本日の会議を終了します。</p> <p style="text-align: center;">委員会終了</p>
-----	--